

おるご〜る

No.
209

男女共同参画
わこうプラン推進委員だより

総務人権課 ☎424-9094

体と心の性が一致しない —考えさせられた ある中学1年生の作文—

わこうプラン推進委員
浅野 里香

当コーナーの担当、総務人権課のAさんが「内容が素晴らしかったため、よろしければお読みください」と、全国中学生人権作文コンテストの受賞作を送ってくれた。非常に「読ませる」内容に大いに驚いた。書き手は中学1年生。戸籍上の性と心の性が一致しないことをベースに「ふつう」とは何かを考え、悩みながらも「自分らしくあること」を宣言していた。一部を引用する。

“誰かにとっての「ふつう」は他の人から見れば「異常」で、「ふつう」かどうかなんて、「ふつう」だと思ふ人の数と「異常」だと思ふ人の数を比べて、どちらが多いかで決まっているようなものだ” “女子は女子らしく、男子は男子らしく。これが「ふつう」なら、「私が私らしく」あることがなぜ「ふつう」ではなくなるのだろう” “作文を書くときに『私』と書くことにも違和感を覚えるようになった”

男子はズボン、女子はスカートといった性別による固定概念への疑問が行間からにじむ。また、日本語は一人称が性別で分かれているため、体と心の性が一致しないと自分を表す言葉にすら悩むことに

なると気づかされた。

そんな話を上述のAさんに伝えたところ、関連情報を寄せてくれた。東京オリ・パラに向け性的少数者の情報発信拠点となる「プライドハウス東京レガシー」がオープンしたという。そしてオープンの10月11日はカミングアウトデー。拠点を通じて性的少数者の支援をする元プロバスケ選手の実理奈さんが記者会見でトランスジェンダーであることをカミングアウトしたのである。ヒルさんはインタビューで「若い世代に向けて、色々な生き方があってもいい、生き方として僕のような表現の仕方もあるよ、と勇気を与えられたらという思い『NumberWeb*』があったと語っていた。情報化社会に生きる私たちである。「思い」はきっと届くだろう…。願いを込めながら記事を読んだ。

●トランスジェンダー：自己認知する性と出生時の性が一致していない人のこと全般を指す。

※Number Web：スポーツ総合雑誌『Sports Graphic Number』の公式サイト